

## これまでの経緯および報告・意見の整理

設置の目的	<p>佐賀発電所の水利権に関連する様々な課題について検討、協議し、これらの課題に対する意見の整理や取りまとめを行うため、「佐賀取水堰に係る検討協議会」を設置する。</p> <p>「佐賀取水堰に係る専門家会議」における協議結果等の報告を適宜受けながら、佐賀発電所水利権更新に係る諸課題、その他佐賀取水堰に関連する事項について検討・協議し、意見を取りまとめて県知事へ報告する。関係首長、住民代表、漁業関係者、学識経験者、四国電力、高知県の委員 14 名で構成し、平成 21 年 9 月に発足。</p>																																
開催実績	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>開催</th> <th>開催年月</th> <th>概要</th> <th>開催</th> <th>開催年月</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回</td> <td>H21. 9. 24</td> <td>専門家会議中間とりまとめの報告、今後の進め方</td> <td>第 5 回</td> <td>H22. 7. 5</td> <td>黒潮町からの報告、専門家会議の追加報告</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>H21. 11. 23</td> <td>現地視察</td> <td>第 6 回</td> <td>H22. 10. 26</td> <td>四万十町からの報告 協議事項の整理</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>H21. 12. 22</td> <td>現地視察、 県・四電からの報告等</td> <td>第 7 回</td> <td>H22. 11. 16</td> <td>とりまとめ(案)について協議</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>H22. 3. 29</td> <td>国・県からの報告 四万十川漁連からの意見発表</td> <td>第 8 回</td> <td>H22. 11. 25</td> <td>最終「とりまとめ」</td> </tr> </tbody> </table>	開催	開催年月	概要	開催	開催年月	概要	第 1 回	H21. 9. 24	専門家会議中間とりまとめの報告、今後の進め方	第 5 回	H22. 7. 5	黒潮町からの報告、専門家会議の追加報告	第 2 回	H21. 11. 23	現地視察	第 6 回	H22. 10. 26	四万十町からの報告 協議事項の整理	第 3 回	H21. 12. 22	現地視察、 県・四電からの報告等	第 7 回	H22. 11. 16	とりまとめ(案)について協議	第 4 回	H22. 3. 29	国・県からの報告 四万十川漁連からの意見発表	第 8 回	H22. 11. 25	最終「とりまとめ」	活動状況	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">■検討協議会での報告等の概要■</p> <p>【国土交通省からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水利権更新の手続き、四万十川における正常流量検討結果について報告</li> </ul> <p>【四万十川漁業協同組合連合会からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川の代表的魚類であり、漁業や遊漁において非常に重要な鮎の増加を促すため、濁水等により河川流量が少なく、鮎の降下時期に必要な流量が確保できない場合などには、取水堰から可能な範囲での協力放流が行なわれている</li> </ul> <p>【黒潮町からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黒潮町としては、70 年の永きに亘り、四万十川から分水頂いたことに深く感謝するとともに、今後とも分水の継続をお願いしたい</li> </ul> <p>【四万十町長からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川は守らなければならない財産であり、後世に残すことが使命であり責務である</li> <li>ダムのない川本来の姿を求めていくことが、四万十町の基本方針であるが、住民アンケートや地域審議会などでは、条件付存続の意見が多い</li> <li>最終的に佐賀取水堰・発電所の存続やむなしと考えるが、その場合には、漁業者や町民の切実な思いを反映させるため、最低でも水利権更新期間の現状の維持、また、現在の維持流量の確保を条件としたい</li> <li>これまでの 10 年間の取り組みを振り返り、今後、行政としての努力をしていかなければならない</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主な意見の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川は高知県の宝であるため、それを守り、育てることが大切である</li> <li>四万十川は高知県の宝として今後も残す必要があるため、四万十川の将来を考える必要がある。</li> <li>自然に流れ込んだ水が自然に流れていくことが、川本来の姿である</li> <li>エネルギー確保の観点から、現状の河川維持流量を存続していただきたい</li> <li>河川環境の維持、地元の大事なエネルギー、電力の供給などの面から判断して、現在の放流量、放流パターンの継続をお願いしたい</li> <li>専門家会議の河川環境に関する評価については、納得していない。</li> <li>これからの 10 年間で、我々が何をすればよいかを考えなければならない。</li> <li>何か目標を持って流域の住民、行政が一体となり行動を起こす必要がある</li> <li>町民が四万十川の環境問題に取り組む必要がある。その結果を見ることも必要である</li> </ul> </div>
開催	開催年月	概要	開催	開催年月	概要																												
第 1 回	H21. 9. 24	専門家会議中間とりまとめの報告、今後の進め方	第 5 回	H22. 7. 5	黒潮町からの報告、専門家会議の追加報告																												
第 2 回	H21. 11. 23	現地視察	第 6 回	H22. 10. 26	四万十町からの報告 協議事項の整理																												
第 3 回	H21. 12. 22	現地視察、 県・四電からの報告等	第 7 回	H22. 11. 16	とりまとめ(案)について協議																												
第 4 回	H22. 3. 29	国・県からの報告 四万十川漁連からの意見発表	第 8 回	H22. 11. 25	最終「とりまとめ」																												
活動状況	<p>○ 第 1 回会議では、専門家会議の【中間とりまとめ】の概要について報告が行われた。また、今後の進め方などについて協議した。</p> <p>第 2 回から第 5 回では、佐賀取水堰・発電所、河川環境調査の実施地点などの視察や、高知県、四国電力、国、四万十川漁連、黒潮町からの報告などが行われた。</p> <p>第 6 回では、四万十町の状況報告が行われ、第 7 回ではこれまでの意見のとりまとめ(案)について協議を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">■検討協議会での報告等の概要■</p> <p>【高知県からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門家会議から、次のとおり調査結果の検証(中間とりまとめ)について報告された。水利権更新後における河川維持流量の増大による分析・評価の結果、「佐賀取水堰から梶原川合流点までの区間において、瀬切れの解消、夏季における水温の低下、底生動物および付着藻類の生育環境については改善が認められるが、河川水質および河川植生については変化がほとんど認められない。また、魚類については、降雨に伴う気象件の影響が大きいことから、変化がわからなかった」</li> <li>平成 13 年水利権更新以降の取り組み状況について報告</li> <li>新エネルギーは、発電効率やコスト面などに課題があり、安定的な電力供給に不安が残ることから、現状では主要な電源としては難しいが、今後とも導入を促進していく</li> </ul> <p>【四国電力からの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>佐賀発電所は、県西部地域最大の電力供給源として使用電力量の 14%を担い、災害時などにおける電源確保や地球温暖化対策にも重要な役割を果たしている</li> <li>前回更新時から国内最大級の河川維持流量を放流することにより、佐賀発電所の発電量は、更新前に比べて約 8%の減電となっている</li> </ul> </div>																																